

18	豊田	豊南中学校	ミサワ ミヅキ 氏名 三澤 美月
分科会番号	10	分科会名	家庭科教育

研究題目 情報を活用して商品を選択し、生活に応用する力をはぐくむ生徒の育成
— 「太郎君一家のピンチを救おう！」の実践を通して —

研究要項

1 主題設定の理由

本学級の生徒は、授業開きの際に「調理実習がやりたい」「ミシンを使うのかな」といった声が多くあがり、家庭科への関心が高いことが見られた。また、消費生活の事前調査では、生徒全員が店舗で商品を購入した経験があり、約9割の生徒がお小遣い（現金）を使って買い物をしたことがあるとわかった。しかし、商品選択の基準は「価格」や「デザイン」に偏っており、「機能性」や「保証」「環境への配慮」といった情報を元に判断する姿は十分とは言えなかった。また、食生活分野の授業の振り返りにおいても、「わかった」「これからの生活に生かしたい」といった抽象的な記述が多く、学習内容を自分の生活と結びつけて考える力に課題が見られた。現代社会は、多様な情報があふれる消費社会であり、消費者はそこから必要な情報を収集・整理し、比較・検討した上で適切に商品を選択することが求められている。そのため、安心・安全な消費生活に向けて、必要な情報を活用し、主体的に判断する力や意思決定力を育成する必要があると考えた。

このような実態を踏まえ、本研究では「太郎君一家のピンチを救おう！」という疑似的な家庭の課題解決を設定し、情報を活用して商品を選択し、生活に応用する力をはぐくむ生徒の育成をめざす。

2 めざす生徒像

本実践では研究主題と照らし合わせ、めざす生徒像を以下のように設定した。

情報を活用して商品を選択し、生活に応用する力をはぐくむ生徒

3 仮説と手立て

仮説1 太郎君一家の願いや、情報を整理・比較する活動を行うことで、多面的な視点から根拠をもって商品を選択できるだろう。

手立て1-① 太郎君一家の設定

生徒が自分の欲しいものを選択するのではなく、家族の願いや使用目的を踏まえて商品を選択するために、疑似家族を設定した（資料1）。体育祭用Tシャツやエアコンなど、他者の視点を含めた課題を設定することで、多面的な視点から商品をとらえることができるようにした。

手立て1-② 情報の整理・比較と話型の活用

広告や資料から必要な情報を収集し、表やXチャートを用いて整理・比較する活動を行った。また、話型を活用することで、根拠を明確にした商品の選択ができるようにした。

資料1 太郎君一家の願い

- ・7月下旬に故障。
和室のクーラーでは涼しくならないため、早めにほしい
- ・予算15万円前後
- ・壊れたエアコンは捨てなければいけない
(父)
- ・エアコンの掃除が面倒
(母)
- ・一日中エアコンを使用するため
電気代が心配



仮説2 体験活動や家庭との連携を取り入れ、学習内容を自分事として捉えられるようにすることで、授業内容を生活に生かす力をはぐくむことができるだろう。

手立て2-① 体験活動の実施

クレジットカードの模擬体験や悪質商法のロールプレイングを通して、消費生活の具体的な場面を体験的に理解できるようにした。また、家庭へのインタビューやお小遣い帳の記録を通して、自身の消費行動を振り返る機会を設定した。

手立て2-② 話型を活用した振り返りの実施

振り返りの際に話型を活用し、「学んだこと」「生活への生かし方」を段階的に整理できるようにした。これにより、抽象的な感想ではなく、具体的な行動につながる振り返りができるようにした。

4 抽出児童生徒について

	生徒の実態	教師の願い
生徒 A	自分のお小遣いを使って商品の購入をした経験があり、インターネットでの商品購入の経験もある。しかし、商品（スニーカー）を選択する際には、「見た目がカッコいいから」「好きなブランドだから」といった限られた情報を基に商品を判断する傾向がある。	仲間との話し合いや他者の考えを取り入れる活動を通して、値段やデザインだけでなく、使用する人の状況や願いを踏まえ、機能性や保証など様々な情報を比較しながら、目的に応じた商品を選択できるようにしてほしい。
生徒 B	意欲的に授業に取り組もうとする姿がある。一方で、食生活分野の振り返りでは、「〇〇がわかった」といった内容の確認や、「これからの生活に生かしていきたい」と抽象的な表現にとどまる傾向がある。	話型を活用した振り返りや、疑似家族の生活について考える活動を通して、家庭科の学習内容を自分の生活と結び付け、具体的な行動として表現できるようにしてほしい。

5 実践と考察

(1) 太郎君一家のピンチ！準備金はどこから？（2時間目）

【手立て2-① 体験活動の実施】

【手立て2-② 話型を活用した振り返りの実施】

生徒たちは、中学校入学時にかかる費用について家族にインタビューする活動を通して、家庭の中でどのようにお金が使われているのかを具体的に知ることができた。また、太郎君一家の一ヶ月分の家計をやりくりする活動を行うことで、家庭内で必要となる支出や、収支のバランスについて考える姿が見られた。振り返りでは、「制服や自転車など、入学時に高額な金額が必要だから将来は計画的に貯金をしていこう」といった記述が見られ、学習内容を自分の生活に結びつけて考えることができた。さらに、生徒 B は「自分のお小遣いの優先順位をつけられるようにしたい」と記述しており、学習を踏まえて自分の消費行動を具体的に見直そうと考えていた（資料2）。このことから、家庭におけるお金の使われ方を具体的に理解するとともに、消費生活を自分事として捉え、今後の生活に生かそうとする意識を高めることができたと考えられる。

資料2 生徒 B の振り返り

振り返りに活用した視点 (1 5)

授業の振り返り

計画的なお金の使い方！
収入より支出が多いことを赤字
支出より収入が多いことを黒字
と言う
赤字にならないように支出の優先順位を考えて
計画的にお金を使うことを金銭管理と言う
自分はまだ家計のことはわからないからまずは、
自分のお小遣いの優先順位をつけられるようにしたい！

(2) Tシャツを購入する時、どんな方法があるかな（3時間目）

【手立て2－① 体験活動の実施】

事前アンケートの結果から、現金以外の支払い方法を知らない生徒が多く、キャッシュレス決済に関する理解が十分でないことが明らかになった。そこで授業では、クレジットカード模擬端末を用いた支払い体験をした（資料3）。振り返りでは「こんなに簡単に支払いができるのがわかって面白かった」といった記述が見られ、キャッシュレス決済の利便性を実感していた。また、暗証番号を入力する際に「数字の位置が毎回変わる！」と気付いた生徒もあり、安全に利用するための工夫にも目を向ける姿が見られた。このことから、キャッシュレス決済を体験的に学ぶことで、支払い方法の仕組みや安全性について理解し、消費生活に関わる知識を自分事として捉えることができたと考える。

資料3 支払い体験の様子



（3）初めての体育祭！太郎君が体育祭で使うTシャツを選ぼう（4時間目）

【手立て1－① 太郎君一家の設定】

【手立て1－② 情報の整理・比較と話型の活用】

本時では、太郎君一家の要望を踏まえ、体育祭で着用するTシャツを選択する活動を行った。生徒は『デザイン』や『値段』だけでなく、『着心地』や『体育祭後も着続けられるか』といった使用目的や家族の願いを考慮し、多面的な視点から商品を選択する姿がみられた。また、話型を活用して理由を整理したことで、商品を使用する人の願いや目的を意識しながら、根拠を明確にして発表することができた。振り返りには、「機能性を見るようにした」「保証の有無も確認したい」といった記述が見られ、これまで重視していた値段やデザインだけでなく、商品の機能性や保証にも目を向ける様子が見えた。

（4）大ピンチ！？太郎君一家の新しいエアコンを選ぼう（6時間目）

【手立て1－① 太郎君一家の設定】

【手立て1－② 情報の整理・比較と話型の活用】

本時では、4つの広告を提示し、それぞれの情報を分析する活動を行った。また、収集した情報を整理するために、Xチャート（資料4）を活用し、商品の特徴を視覚的に比較しながら整理できるようにした。さらに、太郎君一家の要望を設定したことで、生徒は単に値段の安さを比較するのではなく、機能性や保証、使用場面など多面的な視点から商品と比較することができた。

資料4 架空の広告と生徒Aが作成したXチャート



（5）大ピンチ！？太郎君一家におすすめしたい新しいエアコンについて話し合おう（7時間目）

【手立て1－② 情報の整理・比較と話型の活用】

前時に選択したエアコンについて紹介し合う活動を行った。話型を示したことで、生徒は自分の選択理由を整理しながら、自信をもって発表する姿が見られた。また、他者の意見を聞く中で、自分の

選択を見直す生徒もおり、複数の情報や根拠を比較しながら判断を更新する姿が見られた。生徒 A は、家族の願いを踏まえ、事前アンケートで重視していた『値段』だけでなく、機能面にも着目し、多面的に商品进行评估することができていた。さらに話し合いの中で、「お父さんは掃除の回数を面倒に感じているから、フィルターコーティング機能が良い」といったように、家族の状況を踏まえた具体的な理由づけが見られた（資料 5）。このことから、情報を整理・比較し、他者の意見を取り入れた。この考えを見直す活動を通して、商品の特徴を多面的に捉え、根拠をもって選択する力がはぐくまれたと考える。

資料 5 生徒 A のおすすめエアコンの紹介文

2. 太郎君一家におすすめのエアコンを考えよう

●思いと一紙	●ほかの商品と比較	●商品の押しポイント
私が選んだのは B	なぜなら、 ①お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの ②お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの ③お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの ④お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの ⑤お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの ⑥お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの ⑦お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの ⑧お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの ⑨お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの ⑩お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの	このエアコンは、お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの このエアコンは、お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの このエアコンは、お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの このエアコンは、お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの このエアコンは、お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの このエアコンは、お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの このエアコンは、お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの このエアコンは、お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの このエアコンは、お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの このエアコンは、お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの

4. 最終的に、太郎君一家におすすめのエアコンを考えよう

私が選んだのは	なぜなら、
B	①お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの ②お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの ③お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの ④お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの ⑤お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの ⑥お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの ⑦お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの ⑧お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの ⑨お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの ⑩お父さんの掃除が面倒という思いと、Bのエアコンの

（6）太郎君がスカウト！？サインをしていいのかを考えよう（8 時間目）

【手立て 2 - ① 体験活動の実施】

【手立て 2 - ② 話型を活用した振り返りの実施】

悪質商法への理解を深めるため、ロールプレイングを行い、生徒自身が台本を作成して勧誘のやり取りを再現する活動を取り入れた（資料 6）。実際に演じることで、「断りたいと思っても、その場の雰囲気や相手の言葉によって断りにくくなる」といった勧誘を受けた際の心理的な状況を実感する姿が見られた（資料 7）。また、悪質商法に引っかかってしまう可能性を体験するために 3 分テストを実施したところ、文章を十分に読まずにサインしてしまう生徒が多く、日常生活でも同様の危険性があることに気付くことができた。これらの活動を通して、悪質商法に

資料 6 ロールプレイングの様子



資料 7 振り返り

今回の授業までは、悪質商法（詐欺）には自分は引っかからないだろう
と信じていたけど、実際に騙す側をやってみたら、かなり騙されやすい
ということが分かった。今回の授業で、どのように騙すかを
知って、どのようなことに気をつけないといけないか、どのようなところで詐欺（悪質商法）
だとわかるかを自分で調べたいと思いました。

対して注意を払う必要性や、情報を十分に確認せずに判断することの危険性を実感する姿が見られた。このことから、体験的な活動を取り入れることで、消費生活における課題を自分事として捉え、適切な判断につなげようとする意識を高めることができたと思う。

（7）消費者被害からわたしたちを守る仕組みや団体について知ろう（9 時間目）

【手立て 2 - ① 体験活動の実施】

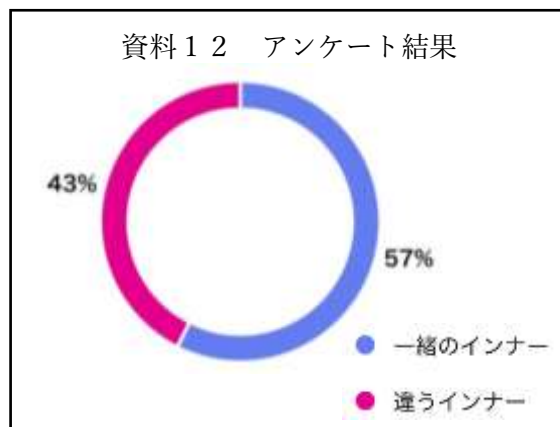
【手立て 2 - ② 話型を活用した振り返りの実施】

本時では、消費者被害から自分たちを守る仕組みについて理解を深めるため、実際にクーリング・オフのはがきを記入する活動を取り入れた。振り返りでは、「クーリング・オフには条件があることを知って驚いた」「本当に自分が欲しいものなのかを考えてから契約したい」といった記述が見られた。また、「はがきの書き方の練習が実際に役立つと思った」といった記述も見られ、学習した内容を実生活で活用する場面を具体的にイメージしている様子が見られた（資料 8）。このことから学習内容を自分の生活と結び付け、適切な行動につなげようとする意識が高まったと考える。

ートや表を用いて整理・比較することで、商品の特徴を多面的に捉え、自分の判断の根拠として活用する姿が見られた。当初は、『値段』や『デザイン』を中心に商品を選択する生徒も見られたが、学習を進める中で、機能性、品質、保証、環境への配慮など、複数の視点から商品を比較し、理由を説明することができるようになった。

さらに、2年次のインナー選択の授業では、「太郎君におすすめするインナー」と「自分が購入したいインナー」で43%の生徒が異なる商品を選択した（資料12）。このことから、学習した知識や選択の視点を、着用する人や用途に応じて活用し、商品を選択する力の高まりがみられた。

以上のことから、太郎君一家の設定や情報を整理・比較する活動は、多面的な視点から商品を比較・選択するだけでなく、自分の考えに自信をもって判断する姿が見られ、学ぶ楽しさや学ぶ意欲につながる手立てとして有効であったといえる。



（2）仮説2について

体験活動では、消費者として判断することの大切さを具体的に理解し、家庭へのインタビューやキャッシュログでは、自分の生活や消費行動を振り返る姿が見られた。キャッシュログでは、「思ったよりお金を使っていた」「お金の流れが分かった」などの気付きや、「ニーズとウォンツを考えて買った」「もったいないからやめておこうと判断できた」など、自分の消費行動を見直す記述が見られた。また、振り返りでは話型を用いて、学習したことや生活への生かし方を整理して表現できるようにした。その結果、生徒Bは「これからは〇〇したい」というように、今後の生活で実践したい具体的な行動を振り返りに記述することができた。学んだ内容を自分の生活と結び付け、具体的な行動につなげようとする姿が見られた。

以上のことから、家庭へのインタビューやキャッシュログなど、家庭と連携した活動を取り入れることで、自分の生活と結び付けて考え、学んだことを生活に生かそうとする意欲を高める手立てとして有効であったといえる。

（3）今後の課題について

本研究で取り組んだ実践は、めざす生徒像である「情報を活用して商品を選択し、生活に応用する力をはぐくむ生徒の育成」に向けた手立てとして有効であったと考える。「太郎君一家のピンチを救おう!」という目的のもと、家族の願いや使用目的を踏まえて商品を選択する活動を通して、生徒は情報を整理・比較し、多面的な視点から根拠をもって判断することができるようになった。また、体験活動や振り返り活動を通して、学んだことを将来の消費行動に生かそうとする考えを具体的に表現することができるようになった。

一方で、今回の実践では、教師が設定した課題をもとに商品を選択する活動が中心であり、生徒自身が日常の消費生活の中から課題を見つけ、改善しようとする姿については十分に育成できていないように思えた。今後は、自然教室のお土産選びなど、生徒自身の生活に関わる課題を取り上げ、家庭や地域とのつながりを意識しながら、必要な情報を主体的に収集・整理し、商品を選択できる学習活動を取り入れていきたい。さらに、自分で考えて判断する楽しさや、学んだことを生活に生かす喜びを感じられる授業づくりを進めていきたい。